



大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター

M I Z U K I

医療連携室ニュース「みずき」

{volume}

41

2019
October

CONTENTS

医療連携室 副室長ご挨拶

新任のご挨拶

(精神神経科)

認知症外来のご案内

(皮膚科)

土曜日も生物学的製剤治療を開始

医療連携室からのお知らせ

編集後記

写真：マリーゴールド

医療連携室 副室長ご挨拶



医療連携室
副室長

しかた はやこ
四方 早子

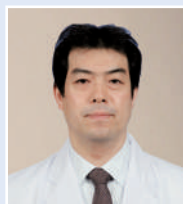
この度、医療連携室副室長となりました四方早子でございます。平素は何かと医療連携にご理解ご協力を賜りまして、感謝申し上げます。医療連携室は、地域の先生方と大阪医科大学附属病院を繋ぐ窓口として「スムーズに対応し、最大限断らない連携」に向けた体制を強化して参りたいと日々検討しております。現在は、周産期ホットライン、循環器内科ホットライン、脳卒中ホットライン、赤ちゃんの心臓ホットラインの取り組みを行っております。患者さんが必要なときに適切な医療が受けられるように、地域との連携を強化し、たくさんの患者さんをお受けできるように調整をしています。入退院調整支援の質の向上のためP F Mとの連携強化、入院の前方支援から後方支援の取り組みを多職種と連携し、先生方と大学病院がより密接な関係を構築できるよう活動したいと存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任のご挨拶

脳神経外科・脳血管内治療科

わに ぶち まさ ひこ
科長 鰐 渕 昌彦

【令和元年7月1日着任】



令和元年7月1日に脳神経外科学教室の教授として就任いたしました。これまで脳腫瘍や脳血管障害を中心として2200件の手術に携わり、近年は頭蓋底腫瘍の手術を数多く施行してきました。診療対象疾患は多岐にわたりますので、学内外におけるチームワークを大切にしていきたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。

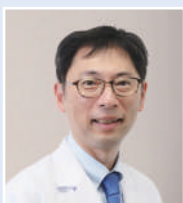
Profile

- 専門分野
脳腫瘍、頭蓋底腫瘍（髄膜腫、神経鞘腫など）、下垂体腫瘍（下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫、ラトケのう胞など）、脳血管障害、神経内視鏡手術、微小血管減圧術（顔面痙攣、三叉神経痛など）
- 資格
日本脳神経外科学会 専門医
日本神経内視鏡学会 技術認定医
日本内分泌学会 内分泌代謝科（脳神経外科）専門医
日本脳卒中の外科 技術指導医
- 略歴
平成 3年 札幌医科大学 卒業
平成 7年 札幌医科大学大学院 卒業
平成 7年 札幌医科大学 脳神経外科
平成 8年 帯広脳神経外科病院・白石脳神経外科病院・旭川脳神経外科病院
平成12年 札幌医科大学 脳神経外科 助教
平成14年 米国Duke大学脳神経外科学講座 頭蓋底微小解剖研究室 留学
平成17年 星が浦病院・KKR札幌医療センター
平成18年 帯広厚生病院 脳神経外科 医長・部長
平成21年 札幌医科大学 脳神経外科講座 講師
平成24年 札幌医科大学 脳神経外科講座 准教授
令和元年 大阪医科大学 脳神経外科学教室 教授
- 趣味/特技
空手道初段

放射線診断科

おお す が けい ご
科長 大 須 賀 慶 悟

【令和元年7月1日着任】



当科では、全身各領域のCT・MRI・核医学検査などの画像診断や、血管造影・カテーテル治療や生検・ドレナージなどのIVR（画像下治療）を行っております。患者さんにご負担の少ない画像診断やIVRを心がけておりますので、ご相談があればお気軽にご紹介ください。何卒、よろしくお願い申し上げます。

Profile

- 専門分野
画像診断、IVR（画像下治療）
- 資格
日本医学放射線学会 放射線診断専門医
日本IVR学会 IVR専門医
日本脈管学会 脈管専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 略歴
平成 6年 大阪大学医学部医学科 卒業
平成12年 大阪大学 放射線医学講座 助教
平成13年 イェール大学 放射線科 客員助手
平成23年 大阪大学 放射線医学講座 講師
平成26年 大阪大学医学部附属病院 IVRセンター長
平成30年 大阪大学 放射線医学講座 准教授
平成31年 大阪大学医学部附属病院 病院教授
令和元年 大阪医科大学 放射線診断学教室 教授
- 趣味/特技
テニス、ドラム演奏

放射線腫瘍科

に へい けい じ
科長 二 瓶 圭 二

【令和元年8月16日着任】



放射線治療はがんの三大治療のひとつで、手術や薬物療法との最適な併用が重要です。症状緩和から根治照射まで、また単純照射から最先端の高精度治療まで、当科では地域のニーズに幅広く対応できるよう体制を構築しています。治療選択に迷われる方へのセカンドオピニオンにも積極的に対応いたします。ご紹介のほどよろしくお願い申し上げます。

Profile

- 専門分野
放射線治療全般（とくに肺、食道、前立腺）、高精度放射線治療（強度変調放射線治療、定位放射線治療）、集学的治療、臨床試験
- 資格
日本医学放射線学会 放射線治療専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本食道学会 食道科認定医
- 略歴
平成 6年 京都大学医学部卒業
平成 7年 日本赤十字社和歌山医療センター 放射線科
平成10年 京都大学大学院
平成11年 国立がん研究センター東病院 放射線治療科
平成23年 がん・感染症センター都立駒込病院 放射線診療科治療部
令和元年 大阪医科大学 放射線腫瘍学教室 教授
- 趣味/特技
楽器演奏（ヴィオラ、ピアノ）、音楽鑑賞、ランニング（マラソン）、山登り（ハイキング）、サイクリング

精神神経科

認知症外来のご案内

やま うち しげる
医長 山内 繁

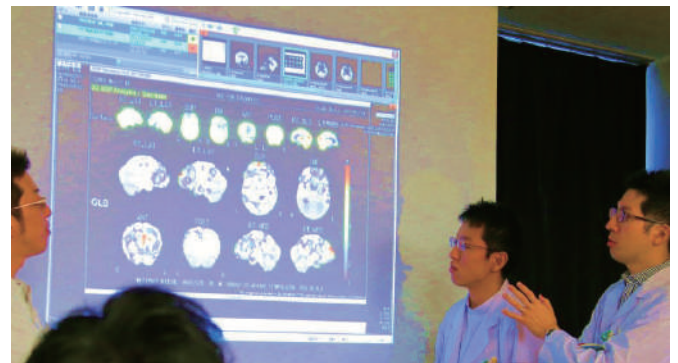


本院精神神経科では認知症の専門外来として『認知症外来』を行っています。2007年から日本は超高齢社会となっており、65歳以上の4人に1人は認知症あるいはその予備軍であるという調査結果もあります。認知症には最も頻度が多いとされているアルツハイマー型認知症の他にレビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などの変性疾患があり、正常圧水頭症や慢性硬膜下血腫、甲状腺機能低下症といった治療可能な認知症も存在します。そのため早期発見、早期診断が重要とされています。また認知機能の維持、ADLの維持のために早期治療も重要とされています。

本院『認知症外来』では頭部MRIや脳血流SPECTに加え、リバーミード行動記憶検査、JART(予測IQを測る検査)、WAIS-III(現在のIQ)などの神経心理学的検査を組み合わせ、認知機能低下の評価、治療可能な認知症の除外を行い、認知症の診断を行っています。またより早く診断するために上記の検査を

2泊3日で全て行う検査入院も行っています。

予約に関しては通常の精神科外来の初診枠となり、月曜から金曜まで予約枠を設けております。ご紹介の際には医療連携室にてご予約をお願いいたします。初診時は、ご家族同伴での来院、検査で朝から午後にかかる可能性があります。



皮膚科

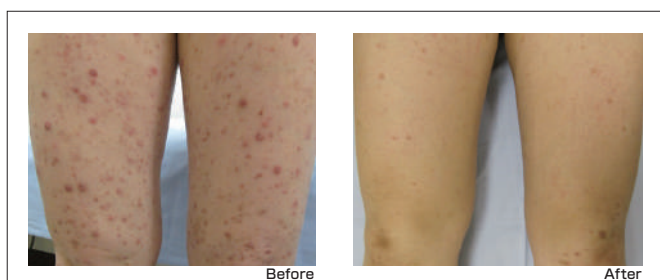
土曜日も生物学的製剤治療を開始

もり わき しん いち
科長 森脇 真一



平日に受診できない方のニーズに応えるため、2018年秋よりアトピー外来以外に光線療法や生物学的製剤の治療をされている再診患者さんの予約枠を開設しました。

光線療法は、既存治療と併用することで皮膚疾患の赤みや痒みをより抑制することができますが、導入期には週に1-2回実施することが望ましいです。生物学的製剤は、既存治療で症状改善が困難な適応患者さんにとって大きな効果につながります。土曜日にも治療を担当させていただくことで、より安全に治療効果をあげることができます。



光線療法

当科では、皮膚科専門医、アレルギー専門医、がん治療認定医など各領域の経験豊富な医師を中心として、難治症例や重症症例、皮膚悪性疾患に対し、特定機能病院として安心・安全かつ高度な医療を実践しています。アトピー性皮膚炎や尋常性乾癬に対する生物学的製剤、悪性黒色腫に対する新規抗悪性腫瘍薬なども症例によって積極的に検討し治療成果をあげています。また、蜂窩織炎や带状疱疹などの皮膚感染症に対しても随時入院加療に対応できる体制をとっています。遺伝性皮膚疾患に対しては、遺伝性光線過敏症の分子細胞診断をはじめとして、他大学とも連携をとりながら希少難治症例の診断確定を行っています。

『全身型紫外線照射器』

アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬などで広範囲に皮疹が生じている場合、外用薬治療だけでなく紫外線を照射することで、過剰な免疫反応を抑える効果があると言われています。従来までの局所的な照射ではなく、1回で全身を照射でき、患者さんの負担を軽減しました。



医療連携室からのお知らせ

公開市民セミナー「脂肪肝について」を開催しました

去る9月7日(土)、本院におきまして肝疾患センター主催公開市民セミナーを開催しました。

まずはじめに、本院肝疾患センター センター長 福西新弥の司会のもと、副センター長 朝井 章より「脂肪肝とは」をテーマに、脂肪肝の原因と予防法や治療法、脂肪肝・肝障害から肝硬変・肝がんについて講演しました。

つづいて、管理栄養士 中村 香緒莉より「肝臓にやさしい食事療法」について、食習慣の見直しから食生活での注意点、食品の調理法など、日常の食生活に役立つ内容を中心に講演しました。

当日は定員数を超える136名のみなさまにご参加いただき、講演後は低カロリーカレーの試食や、みなさまからの質問に朝井医師が対応するなど、会場は終始和やかな雰囲気の中、盛況に終えることができました。

今後も肝疾患センターは、大阪府肝疾患診療連携拠点病院として、肝疾患診療の向上と肝疾患の情報提供や相談支援の充実を推進してまいります。



病院ホームページから医療連携室ニュース「MIZUKI」のバックナンバーがご覧いただけるようになりました

- 方法／病院ホームページトップ → 医療機関の方へ → 広報誌「MIZUKI」



編集 後記

猛暑が終わりを告げ、虫の声が聞こえる季節を迎えました。

この夏、ひょんなことから我が家にやってきた鈴虫たち。鳴く季節はてっきり秋とおもっていましたが、8月初めには、小さな体で鳴きながら羽音を響かせはじめ、お盆の頃には10匹近くのオスが「りんりん」と大合唱をはじめました。大きく元気に育ち、オスの素敵な声を鑑賞しているうちに、9月にメスが産卵し、産卵が終わるとオスの鳴き声が小さくなってきました。なぜ?・・・子孫を残すためにオスはメスの犠牲となり次の世代へと種をつなげていくことを知り、あまりに短い一生に驚き、美しい声の意味を知りました。満月を見る頃、残った数匹が秋を待ち望んでいたかのように、せつない最後の美声を響かせています。

医療連携室での一日一日は、とても短く感じます。1週間しかり、ひと月、ふた月、あっという間に過ぎ去っていく。鈴虫のことでいろいろな事に思いをはせた今年の夏。一つ一つの仕事や、時間を大切に、また新しく2019年度の後半へと踏み出していきます。(S.F.)



医療連携室ご利用のご案内

医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30～20:00 土曜日／8:30～12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科大学附属病院広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

● TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308

● TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)



送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください